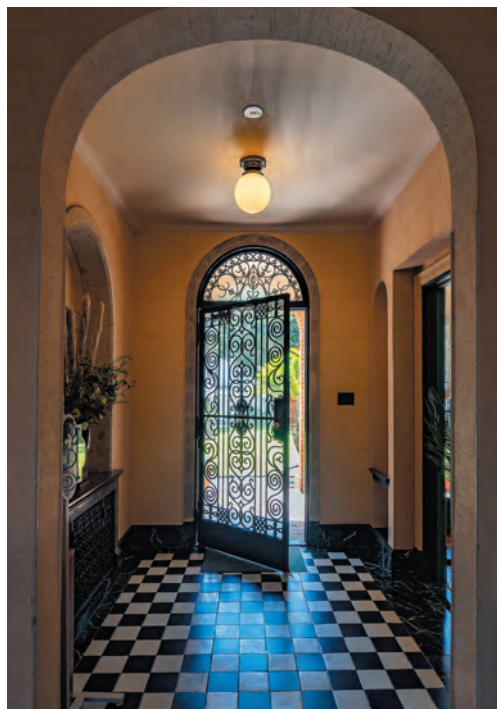




南北に開口部があり明るく華やかなリビングルーム



渦巻き状の幾何学模様を組み込んだアイアンゲリルと市松模様のタイル床が美しい玄関ホール

温故
知新

第34回

レトロ建築を歩く

ペーリック・ホール

多くの洋館が建ち並び、異国情緒漂う横浜山手エリア。

このエリアに現存する戦前の外国人住宅のなかで、最大規模の建物がこのペーリック・ホールだ。

ペーリック・ホールはイギリス人貿易商であったペリック氏の邸宅として、昭和5年（1930年）に完成した。設計したのは、アメリカ人建築家J・H・モーガン。同じ山手エリアにある、山手111番館や横浜山手聖公会の設計者としても知られる。

地下1階、地上2階建てのこの建物は、色モルタル（セメント、砂、水に顔料を混ぜて着色した壁材）による粗面仕上げの外壁と、瓦の赤屋根が特徴の「スパニッシュスタイル」（スペインを起源とする建築様式）を基調とした外観を持つ。

内部にも、スパニッシュスタイルの特徴が数多く見受けられる。玄関ホールは、白と黒のタイルで市松模様が描かれた床と、格子状の棧のなかに渦巻き状の幾何学模様を組み込んだアイアンゲリルで飾られている。

この建物の階段飾りなどにも用いられる巧みなアイアンワーク

は、スパニッシュスタイルの特徴のひとつだ。

南北方向にアーチ状の開口部を持つリビングルームは、4m近い天井高とも相まって、明るく華やかな空間が広がっている。石張りの暖炉や重厚な化粧梁組天井（あえて梁を見せるように仕上げた天井）も、見どころ。

リビングルームの北側に繋がるのは、「パームルーム」と呼ばれる、いわゆるサンルーム。北向きの部屋だが、アイアンワークが美しい大きな窓から、室内に明るい光が溢れる。

この部屋には、これもスパニッシュスタイルの特徴である壁泉（建物壁面に取りつけた彫刻などから放水し、下で受けるようにした噴水の1種）が設けられている。

2階の令息寝室にも、スパニッシュスタイルによく見られる「クワットレフォイル」（四つ葉文様の小窓）が組み込まれている。

フレスコ画技法（壁材の漆喰が乾ききらないうちに色をつける技法）で青く塗られた壁も印象的だ。

平成13年（2001年）に、横浜市認定歴史的建造物に認定されている。



青く塗られた壁と、クワットレフォイルが印象的な令息寝室



スパニッシュスタイルの特徴である獅子頭の壁泉が目を引く「パームルーム」

DATA

名 称 ベーリック・ホール
所在地 横浜市中区山手町72
完 成 昭和5年
設計者 J・H・モーガン

